

看護師20年・3人の子育てお母さん

藤田りょうこ

都政・医療福祉対策室長 事務所ニュース

No. 27 2017年 3月 2日



認可保育園を増やして！

保護者、保育士の痛切な訴え

“保育園落ちた” 前年超え

今年4月に認可保育所に入所する人の選考結果が各地で出され、“保育園落ちた”の声が前年を超えています。安倍政権が掲げた待機児童「ゼロ」目標とは程遠い実態に、お母さんたち

の悲しみと怒りが広がっています。

保護者として参加

2月24日、保護者や保育士が参院議員会館で「保育所増やして！保育士増やして！安心・安全な保育は国の責任で国会大行動」が行われ、3人の息子さんの母・藤田りょうこさんも参加しました。

藤田りょうこのコメント

保育園に落ちず働ける東京へ

「保育園のためにキャリアを積んだ仕事を辞めるのは納得いかない！」「保育園に入れず人生を狂わされています！」
「私たちの世代は年金も激減する。将来のために70歳までのローンを組んで、働かなければいけないんです！」

保育園に落ちず安心して働ける東京へ、保育士さんが働き続けられる保育園を！
参加者みなさんの声を政治に届けるため、頑張ります！

「認可保育園を増やして」と保護者が声をあげた国会行動。左手前が藤田さん



第一回 都議会定例会

3月1日、藤田りょうこさんは都議会を傍聴。以下のコメントを述べました。

傍聴して 藤田りょうこ

これまで歴代知事と共に豊洲移転を後押ししてきた、自民・公明・元民進の都議が、質問のなかで「豊洲問題の闇を明らかにする」表明をしていました。議会でのチェック機能を果たしてこなかった議員にも、大きな責任があると思いますが、百



多摩川駅での朝宣伝にて (2月27日)

連絡先

〒144-0051 大田区西蒲田6-34-7 ☎3736-1494 fax3735-4522
URL <http://r-fujita.jcp-ota.jp/> E-mail r-fujita@jcp-ota.jp
Twitter @ryokofujitajcp Facebook @ryoko.fujita.jcp



わたしも
応援
します！

子育ての大変さを身をもって 体験している藤田さん

日本共産党蒲田西地域
連合後援会会長 伊藤 栄二

50年前を思い出す

今朝も孫娘がひ孫を保育園へ送りに行く。その姿を見て50年前の頃を思い出した。

私は公務員、まだ育児休業制度がない時代。妻は会社員で産後休暇後すぐ勤めに出なければならなかった。そのころ区立保育園のゼロ歳児保育は皆無で、久が原の「ベビホーム」へ預けた。赤ん坊をおんぶし、ママコートを着て電車に乗るのが恥ずかしかった。1歳すぎて区立保育園へ

入園できた時は嬉しかった。設備が整っていて保育料が3分の1になった。

ポストの数ほど保育園を

その頃「伏魔殿」といわれた都政は、美濃部革新都政になった。私たちは各園に「父母の会」を結成し、「ポストの数ほど保育園を」「保育内容の充実を」と、都や区へ要請し、かなりの要求を実現することができた。

都政を都民本位に

増え続ける待機児童問題、長時間労働などで働きながら子育てをすることが困難になっている。こうした問題を解決するためには、都政を都民本位に変えていかなければならない。子育ての大変さを、身をもって体験している藤田りょうこさんを、何としても都政に送り出し、都政を変えていただきたい。

私も精一杯応援したいと思います。

藤田りょうこさんを何としても都政へ



蒲田西連合後援会の新春のつどいで、右が伊藤栄二さん（1月28日）

いよいよ本番

駅頭宣伝・まちかど宣伝を勢いよく楽しくやりましょう。ビラまき、のぼり、プラスタ―を大勢のみなさんで。



鶴の木駅での朝宣伝にて（2月21日）

《主な駅頭宣伝》

※雨天中止または変更の場合あり

- 朝の駅頭** 7時15分～8時
- 6日（月） 洗足池駅
- 7日（火） 蒲田西口
- 8日（水） 武蔵新田駅
- 9日（木） 沼部駅
- 夕方の駅頭** 17時～18時
- 10日（金） 蒲田西口

藤田りょうこ成長記

27

全力疾走20代 編

藤田りょうこ

年に2回トリアスロン

手術室に異動。夜勤がなく給料は6、7万円減りましたが、仕事以外の行動に参加しやすくなりました。とりわけ組合の

NURSE GOOD JOB
人と接すること、体を動かすことが大好き
看護婦は私の天職なんです！

PROFILE
東京都出身。1996年、都立医療技術短期大学を卒業。同時に看護師免許を取得。同年、城南福祉医療協会大田病院に就職し、呼吸器・消化器内科病棟に勤務する。1999年7月よりオベ室へ異動。院内では、トリアスロン、バレーボール、ツーリングなどのサークルでも活躍している。

城南福祉医療協会 大田病院 オベ室勤務
澤井 綾子さん 取材・構成 橋本まどか

医学芸術社の月刊誌に掲載された私の記事

会議にはよく出席し、そこで夕食代が助かりました。休日も体を動かし、1年に2回トリアスロンに参加しました。この頃から「せっかくレースをするのなら、自然豊かで海のきれいなところがいい」と思うようになり、海外や島のトリアスロンを目指すようになりました。またこの時期、民青新聞やしんぶん赤旗に記事が載ったり、医労連の春闘ポスターのモデルになったり、一般雑誌の取材を受け巻頭力ラーで掲載されたりしました。ちよっとした有名な気分でした。（25歳）